

西遊記

お馴染、三蔵法師が、孫悟空、沙悟浄、猪八戒の三人をお供に天竺までありがたいお経を戴きに行く旅で、さまざまな困難に遭遇しながら、艱難辛苦の挙句に天竺まで到着する話である。もともと、当時の風潮を揶揄・批判するような内容のものだったから、今の読者が当時の本を読んでもあまりピンとこないだろう。だから、その時代に応じてすこしづつ改変されて、連綿と続いてきた小説である。

沙悟浄は、中島敦の小説「悟浄出世」などにあるように、求道家であり哲学者のような存在である。ボクの好きなのは猪八戒である。なぜか。・・・ちょっと屈折しているのであるが、この男には、人間の持つ業のようなものが満ち溢れているからである。曰く、いやらしさ、汚らしさ、いい加減さ、狡さ、好色さ、浅ましさ、でたらめさ、賄賂に弱いし、誘惑に弱い。おだてに乗りやすい、金銭欲はともかく欲望は際限もないし、その場しのぎだし、いざとなれば味方も平気で裏切る。まあ、ある意味では可愛気のない卑怯未練な男なのであるが、ひとつの波が過ぎてしまうとケロッと、そんなことがあったかな。こういう狡猾な（前言を平気で翻すような）人間・・・こんなヤツ、どこにでもいますやろ。（自分の中にもあるかも知れない。）常に自分の利益になるように動く。人間としての品格など、どこをさがしてもない存在であるが、逆に言えば自らの一番いやらしい面を見せつけられるような存在である。自分にもあるから、しゃあないなあ、と言わしめる人間性である。

ボクは人間にそこまでの品性を求めないし、期待しないし、そういう品格のある人はいないだろうとも思っている。目先の利益に反応するし、後先考えずに「利」の趣くままに行動するし、他人の功績も自分のものにしてしまう。・・・ただし、小生は、できるだけそうなりたくない、とは思っている。

これを書いた理由は、いくつかあるのだが、ひとつには 2005 年 3 月、外国旅行をしたとき、嫌な連中と（いい人たちも大勢いたのだが）たまたま同行することになった。このとき、上記人間のいちばん弱い面がもろにあらわれていた親子がいて（ナニ、顔を見ればわかります。人は見かけによるのです。）、そ

の顔が誰かに似ているなあと思いつけていたのであるが、ある日はたと気づいて、「こいつは猪八戒やな」 自慢話のオン・パレードで、小生は、(そう
いうことが始まりそうやな、もしそうなったら、グウの音も出ないほどにやっ
つけるかもしれないから) 席をはずしたのであるが、彼らにはそれすら不愉快
だったらしい。(ナニ、自慢話の中身など聞かなくても予測がつくし、それに対
する痛烈なしっぺ返しもあったのだが、旅行の最初から不愉快な思いをするこ
ともなかろう、と思っただけの話。・・・詳細を述べることもあるかも知れませ
んが。) 何を勘違いしたのか、娘の方が自慢そうに鼻をピクピクさせていた。こ
っちは、猪八戒が何を自慢しとんねん、笑いをこらえるのに必死で。

もうひとつの理由。西遊記は玄奘三蔵が主人公ではないにしてもきわめて重
要な登場人物で、実在の人である。主人公は一種の化け物だから。・・・で、こ
の玄奘三蔵は、西暦 664 年に長安で死去し、洛陽郊外に葬られた。11 世紀に遺
骨の頭の部分だけ弟子たちによって南京に葬られた。

昭和 17 年 12 月 23 日、(筆者註：つまり、**あったとされる南京大虐殺からま
る 5 年後**) 当時南京に駐屯していた高森部隊が、たまたま発掘した。石棺には
経緯が詳しく記されており、副葬品もそっくりそっくり出土した。

昭和 18 年 2 月 23 日、遺骨は一切の副葬品と共に、南京政府(汪精衛政権)
に返還された。これが非常に喜ばれた。翌年南京郊外の玄武山に塔も建てられ、
日中双方から重光葵大使や仏教界の代表者が出て盛大な式典が行われた。

この時、発見者である日本にも分骨の申し出があり、昭和 19 年 10 月、遺骨
の一部は日本にも持ち帰られた。現在は薬師寺にある。

敗戦直後、遺骨といえども戦争中に外国から持ち帰ったものは返還しなけれ
ばならないのではないかと、という問題が起きたが、昭和 21 年、当時の蒋介石
政権から正式に「ご頂骨は返還しなくてもいい。広く顕彰することは、むしろ
喜ばしいことである。」と改めて通達された。

この遺骨に関する高森部隊と当時の中国政府の関係は、伝えられる限りでは
まことにすがすがしい。

日本の関係者が勝手にしようと思えばできた状況にあっただろうが。きちん
と尊敬と礼儀をもって返還された。(曾野綾子：なぜ人は恐ろしいことをするの

か。講談社文庫の抜粋。一部省略した。筆者)

それでも、南京大虐殺があったという人がいるのだが、どうも大虐殺を受けたあとの人間として、いかに中国には大人（タイジン）がいると言っても、違和感がありすぎる。

2007.04.23.